

① 音楽
② 親しい
③ 大工

④ 夜間
⑤ 絵画

2
1 イ
2 ま
つ
た
く

3 イ
4 エ

5 水中
6 イ

7
I 2
II 2
III 1

3
1 2

2
I 家
II オムライ
ス

3 ウ

4
A イ
B オ
C ア

5 ゆめ
6 まっす

【完答】

配点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
<計>100点	

1 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「音楽」の「音」は「おと・ね」とも読む。「楽」は「白」から書く。そのあとの四つの点の向きに気をつけよう。②の「親」は「おや」とも読む。部首は「見(みる)」である。形が似ている「新」の部首は「斤(おのづくり)」である。③の「エ」は「石工」「細工」「工夫」などでは「く」と、「工場」「工作」「人工」などでは「こう」と読む。④「夜間」は「夜の間」のこと。「夜」の部首は「夕(ゆう・ゆうべ)」。⑤「絵画」は「絵」のこと。「画」の「うけばこ」を正しく二画で書くこと。

2

- 1 何が「カビのような原始的な植物のなかま」なのかと考える。それは、「いまから約三十億年以上も前の、海の中」で「地球上に」「初めて」「たん生した」「生物」である。ア→エをそれぞれ①にあてはめてみても分かる。エの「カビ」はあとで初めて出てくることばなので、ここにあてはめるのはおかしい。
- 2 「まったく」は「全く」と書く。完全に、すっかりということである。
- 3 海の中でたん生した植物が潮だまりや湿地でくらしはじめ、やがて完全に陸上でくらすようにかわった ↓ でも ↓ 陸が上がった種子植物のなかから、もとの水べや水中のくらしにもどっていったものがあつた。
せつかく水中から陸上に行ったのにまた水中にもどったので、意外なことをつなぐ「でも」があてはまる。
- 4 すなおに直前のことばを指している指示語である。「これ」は「水草」なので「水べや水中」ということばだけでも分かっただろう。本文をしっかり読んでいけば、ア→イ→ウ→エの順に進化して水草が生まれたことも分かっただろう。
- 5 「水べ」とならんでいるので見つけやすかったが、あとの「での」に注目できるようにしてほしい。「での」の前なので場所や場面を表すことばがあてはまるのである。
- 6 「進化」ということばを知らなくてもア・ウ・エが「からだのつくり」をかえたことにあてはまらないことは分かったはずである。
- 7 I 「地球上に初めてたん生した生物」は「動物のなかま」ではなく「植物のなかま」であつた。
II 動物が「泳ぐ」「速さ」については本文に書いていなかった。
III 動物はクジラやイルカを例にあげて、植物は水草を例にあげて説明していた。

3

- 1 直前の「やっぱり、ダメか」がヒントになっている。◎の文は「もう」オムライスになるのは無理か、という意味のものである。1・3・4のところは、あきらめた気持ちになつている場面ではない。
- 2 この話の大まかな説明になっている。Iは「タマキ」が「回つて」いるところ。IIはタマキ自身がなりたいたいものである。
- 3 「しようみきげん」は、おいしく食べられる期限のことである。くわしく知らなくても「きげんが切れる」という言い方でなんとなく分かったはずである。その「反対」の状態を表すことばは「しんせん(新鮮)」である。
- 4 A 「くたくた」はつかれきつているようす。タマキはたくさんの家を回つてきたのであつた。
B 「くらくら」は目まいがして、たおれそうなようす。たまごのタマキは「ころころと」ころがって移動する。「ころがり」つづけたおかげで「目が回りそうなのである。」
C 「まじまじ(と)」はじつと見つめるようす。やさしい「おくさん」はタマキをじつと見てくれているのである。
- 5 「タマキのむね」のなかで「きえかけていた」もの、そして「よみがえ」ってきたものである。それは、おいしいオムライスになるという「ゆめ」であつた。
- 6 「タマキ」が「レストラン小山へ行って」なりたいたいものである。字数をまちがって、九字の「さいこうのえいこう」を答えにしてはいけない。